

岡山地域勉強会 2015年度 第5回会合 (議事録)

1 概要

- (1)開催日時：平成27年10月17日(金) 13:00～17:30
- (2)開催場所：横山製網(株)(瀬戸内市)
- (3)今回の指導役：細坪座長
- (4)議事録作成者：福原
- (5)参加者：(順不同、敬称略)

細坪(危機管理対策機構)ほかD-PACプロジェクトメンバー7名
横山・松本(横山製網)、奥野(奥野組)、眞鍋(ノテプ工業)、平松(賀陽技研)
赤堀(ユニカス工業)、福原(岡山産業振興財団)
裳掛コミュニティ協議会員・消防団員、瀬戸内市議会議員
瀬戸内市危機管理課職員、横山製網従業員 計約110名

2 訓練内容

(1)テーマ

大規模災害を想定した地域企業とコミュニティが連携した自主防災組織(CERT)訓練
(CERT: Community Emergency Response Teams)

(2)目的

大規模災害時の人命救助は、消防・自衛隊・警察など公的機関による「公助」の緊急対応には限界があり、「自分の命は自分で守る」という「自助」に加え、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の精神に基づいた自主防災組織訓練を通じて、次の訓練目的の達成を図った。

- ①地域企業とコミュニティが連携した地域防災能力の強化(災害に強いコミュニティづくり)
- ②企業の防災能力の向上及び地域貢献を通じた企業価値の向上と事業継続力の強化

(3)区分

区分	訓練対象
第1部	裳掛コミュニティ協議会員・消防団員 及び横山製網(株)従業員代表
第2部	岡山地域勉強会会員等
第3部	横山製網(株)従業員

(4)主催等

- ・主催：横山製網(株)、裳掛コミュニティ協議会
- ・後援：瀬戸内市
- ・協力：特定非営利活動法人 危機管理対策機構、(公財)岡山県産業振興財団

(5)成果

ア D-PAC プロジェクトメンバーの全面的支援を受けて、岡山県内では初めて地域企業とコミュニティが連携した自主防災組織訓練を実施したが、実施に当たっては、主催者である横山製網(株)の横山代表取締役と裳掛コミュニティ協議会の服部会長の「地域住民の命を守る」との強い意思の下、多数の住民が参加した訓練とするために周到な調整と準備を行って頂いた。服部会長は「有意義な訓練だった。地域は高齢化が進んでおり、地場企業の組織力を借りることができれば防災力は大きく向上すると感じた。」と述べる等、所期の訓練目的を達成することができた。

イ 大規模災害発生の際、行政は社会福祉協議会を通じて小学校、公民館等の避難場所において避難民を受け入れて所要の支援を行うこととなるが、過疎地の地域コミュニティは高齢化しているため活動には限界があるため、企業と連携して災害に備え、災害直後に適切に対処することができる地域コミュニティであれば、復興も力強く進むものと考えられる。地域と共生する企業にとって、地域の消滅は廃業を意味することであり、災害に負けない地域社会づくりへの貢献は事業継続の観点からも不可欠であり、地域や行政を含めた自主防災組織訓練の実施は極めて意義があった。

【主催挨拶：横山製網代表取締役】



【主催者挨拶：服部会長】



【事前講義】



【訓練開始前のブリーフィング①】



【訓練開始前のブリーフィング②】



負傷者のトリアージ(優先順序付け)



梃子の原理を活用した負傷者の搬出



脊髄損傷の疑いのある負傷者の搬送



訓練の裏方①



訓練の裏方②



訓練の裏方③



山陽新聞

10月22日
木曜日

治療の緊急度を分類

大規模災害想定 CER T訓練

瀬戸内・雲掛
内60
民住

瀬戸内市の箕掛地区などで、公の救助隊が
コミュニティ協議会と
すべに被災現場に近づ
漁網製造・横山製網(同
市邑久町虫明)は17日、
大規模災害を想定した
CERT(サート)訓
練を行った。

CERTはCommunity Emergency Response Teams
(地域の自主防災組織)
の略。1980年代に
米国で発祥し、プロク
ラム化された訓練で、
初期消火や避難といっ
た防災訓練から一歩踏
み込み、負傷者の症状
に応じて治療の優先度
を決める「トリアージ」
の簡易判断など専門的
な内容を含む。今回は
県産業振興財団の協力
で初めて企画。県内
でも先進的な試みとい
い、住民や同社員ら約
60人が参加した。

NPO法人危機管理
対策機構(東京)の細
坪信二事務局長が講師



脊髄損傷の疑いがある
傷病者の搬送方法につ
いて学んだ。
コミュニティ協議会
の服部靖会長は「有意
義な訓練だった。地域
は高齢化が進んでお
り、現場企業の組織力
をお借りできれば防災
力は大きく向上すると
感じた」と話した。
(大河原三恵)

週刊

岡山経済を読む

vision岡山

平成27年11月2日発行 第51号 第12号 通巻第1904号

2015 No.1904

11.2

<http://www.visionokayama.jp>

地域と連携し防災訓練 工場を避難場所に活用

横山製網

横山製網株式会社(瀬戸内市邑久町虫明3133、横山信昭社長、資本金2200万円)は、このほど、災害時に地域住民と連携して救助活動ができるよう、本社工場で自主防災訓練を実施した。

大規模災害時、消防や警察などによる緊急対応では限界があることから、「自分たちの地域は自分たちで守る」をテーマに地域貢献活動の一環として初めて企画した。

社員と地域住民ら約110人が参加。3班に分かれ、NPO法人危機管理対策機構(東京都)の指導で、脊髄損傷者の搬送方法や傷病者の重症度を簡易的に判断する訓練な



脊髄損傷者の搬送法を指導
ど米国発の自主防災訓練「CERT(サート)トレーニング」を実施。重症者の判断訓練では「思った以上に重症者の判断は難しかった」といった声も聞かれた。

訓練は今後も定期的な実施する考え。また、高台にある本社工場を災害時の避難場所として地域住民に広報する予定で、横山社長は「困ったときはお互い様の精神。企業の組織力を生かし地域の防災力を高めたい」と話している。